〔連載〕武州みたけの信仰⑪

すくなびこなのみこと 少彦名命について（下）

國學院大學教授
神道学博士
三橋健

さまざまな表記をもつスクナビコナノミコト

これは初めに述べるべきことでしたが、スクナビコナノミコトという神名は、次に掲げるように、さまざまに表記されています。

表題に掲げた少彦名命との表記は、『日本書紀』神代上に見られるものです。『古事記』上には、少名毗古那神とあり、『出雲国風土記』飯石郡の条には、須久奈比古命と見え、『播磨国風土記』揖保郡の条には、少日子根命、同じく神前郡の条には、小比古尼命と記されています。また『尾張国風土記』逸文には、小彦命と見えており、『伊豆国風土記』逸文や『万葉集』巻三の三五五、巻六の九六三などには、少彦名とあり、さらに『伯耆国風土記』逸文には、少日子命と記してあり、『伊予国風土記』逸文には、宿奈毗古那命、さらに『万葉集』巻十八の四一〇六には、須久奈比古奈とあり、さきに掲げた『播磨国風土記』揖保郡の条には、少足（すくなたらし）命という神名も見え、『古事記』中には、須久那美迦微とも記されており、また『万葉集』巻七の一二七四には、少御神と見えております。

このように同じ神と考えられるものにも、さまざまな名前があり、表記法にも異同が見られます。

例えば、『古事記』と『日本書紀』を比較してみると、前者は万葉仮名的な表記であり、後者は漢字で表記してあります。仮名は発音を表しますが、そこから意味を知ることはできません。漢字は意味を表しております。したがって『日本書紀』の少彦名命という表記により、この神の名前の意味を知ることができます。

スクナビコナノミコトという神名の意味

それでは、スクナビコナという神名には、どのような意味があるのでしょうか。

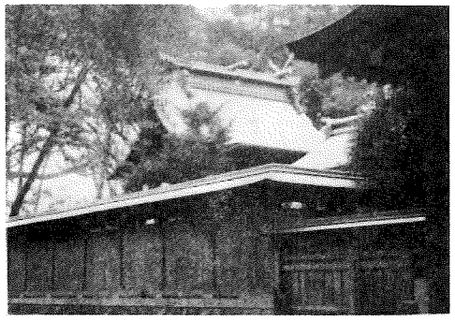
スクナは「少」「小」と表記されています。これは身体の小さいことで、小人という意味になります。また、ヒコには「彦」「日子」という漢字をあてています。「彦」は「姫」に対する語で、立派な男子のこと、また「日子」は太陽の子、太陽の神秘的な力を身に受けた男子という意味にもなります。最後のナは、「名」「根」などと表記されており、小さいものにつける愛称といわれております。

このようにスクナビコナとは、一寸法師のように小さいけれども、太陽から素晴らしい力を受けている立派な男子ということになります。

また、さまざまに表記されているのは、神徳も多岐にわたっているということで、国土造成神、温泉神、常世神、石神、穀霊神、医薬神、医療神、などと信じられております。

スクナビコナノミコトと酒列磯前神社

スクナビコナノミコトをまつる神社で、最も有名なのは茨城県那珂湊市磯前町に鎮座する酒列磯前（さかつらいそさき）神社です。同県の東茨城郡大洗町の大洗磯前（おおあらいいそさき）神社にも少彦名命を祭っていますが、当社の方は配祀神（はいししん）となっております。



少彦名命をまつる酒列磯前神社

両社ともオオナモチノミコトとスクナビコナノミコトを祭神としていますが、酒列磯前神社の方は、スクナビコナノミコトを主神として祭っているところが注目されます。したがって、酒列磯前神社は我が国におけるスクナビコナノミコトに対する信仰の中心といえます。

当社は、一般に酒列明神と呼ばれていますが、俗に「乳母神様」と称され、安産の神として信仰されています。

酒列の語義には、諸説があります。祭神が酒の神のスクナビコナであるので、酒と関係があるともいわれます。また、岩石との関係も縁起などからして明らかで、荒磯に岩石が列なっているという逆列（さかつら）説も見られます。酒列をサカナミとよみ、逆浪とする説もあります。サカを境界と解し、そこに酒を入れる甕（みか）を並べ、外から来る邪霊をふせいだとの説も見られます。

例祭は八月二十五日。三月七日のヤンサマチには競馬が行われましたが、今は馬は出なくなりました。

スクナビコナノミコトをまつる神社

スクナビコナノミコトをまつる神社は、各地に所在しています。オオナムチノミコトとともに祭られる場合が一般的です。

北海道神宮、上川神社、帯広神社など、北海道に多く見られるのは、スクナビコナノミコトが開拓の守護神として信じられていたことによるものと思われます。

秋田県の大平山三吉神社、山形県の湯殿山神社、東京都の神田神社、そして武蔵御嶽神社、山梨県の金桜神社、三重県の敢国神社、兵庫県の伊和神社、奈良県の大神神社などが主要なものです。また、式内社のような古社にもスクナビコナノミコトを祭る神社があります。例えば石川県（能登国）の七尾市と鹿島郡に、宿那彦神像石（すくなひこかみかたいし）神社が鎮座しており、両社とも『式神名帳』能登国能登郡に記載する宿那彦神像石神社であると主張しています。つまり論社です。

また、社名が示すように、神像石を祭っています。七尾市のものは、高さが約二一八センチ、下幅が約一一五センチ、上幅が約七五センチの巨石といい、鹿島郡のものは高さ約三二センチ余り、薄緑色の石だそうです。いずれも神代の昔、少彦名命が、この霊石に神霊を留められたと伝えております。

なお、能登国羽咋郡には大穴持神像石（おおなもちかみかたいし）神社が鎮座していることも留意されます。